福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和７年第２６週（令和７年６月２３日～令和７年６月２９日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

ヘルパンギーナの定点当たりの報告数が、従前の警報レベルの基準値（定点当たりの報告数6.00）を超えました。本疾患は、乳幼児を中心に、主に夏に流行します。感染後2～4日で突然発熱し、のどの痛みや、のどに発赤・水疱が現れます。発熱は1～3日続き、食欲不振、全身のだるさ、頭痛等を起こします。のどの痛みで食事や水分を十分にとれない場合があるため、脱水症に注意しましょう。また、発症から2～4週間、便からウイルスが排せつされることがあるため、トイレやおむつ交換の後は、流水と石けんでしっかりと手洗いをしてください。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	22	365	241	6,329
腸管出血性大腸菌感染症	7	75	91	850
チクングニア熱	1	2	0	8
レジオネラ症	3	31	83	977
アメーバ赤痢	1	11	7	221
ウイルス性肝炎	1	4	3	111
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	2	2	82
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	42	15	763
後天性免疫不全症候群	1	19	10	387
侵襲性肺炎球菌感染症	2	90	45	2,226
梅毒	12	381	195	6,579
百日咳	97	1,729	3,211	35,810

■ 定点把握疾患報告数　　：警報レベル（※）　　：注意報レベル（※）

病名	福岡県			全国(前週)	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	183	1.50	1.32	3,841	1.00
インフルエンザ	35	0.29	0.74	1,048	0.27
急性呼吸器感染症	5,106	41.85	0.95	200,018	51.93
ＲＳウイルス感染症	14	0.20	0.70	560	0.24
咽頭結膜熱	67	0.96	1.16	1,706	0.73
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	221	3.16	0.89	6,096	2.60
感染性胃腸炎	509	7.27	0.99	13,621	5.81
水痘	34	0.49	1.13	1,041	0.44
手足口病	41	0.59	1.17	773	0.33
伝染性紅斑（警報レベル）	209	2.99	0.92	5,943	2.53
突発性発しん	30	0.43	0.94	884	0.38
ヘルパンギーナ（警報レベル）	429	6.13	1.09	1,450	0.62
流行性耳下腺炎	5	0.07	1.00	213	0.09
急性出血性結膜炎	0	0.00	0.00	20	0.03
流行性角結膜炎	12	0.46	1.09	603	0.87
細菌性髄膜炎	1	0.07	－	9	0.02
無菌性髄膜炎	1	0.07	－	19	0.04
マイコプラズマ肺炎	6	0.40	1.20	240	0.50
クラミジア肺炎	0	0.00	－	2	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1	0.07	1.00	25	0.05

（※）令和７年第15週からの定点医療機関の減少等に伴い、従前の警報及び注意報の基準値を直ちに当てはめることはできません。そのため、国が警報及び注意報の取扱いを検討することとしています。取扱いが示されるまでの間、本県では従前の基準値で運用することとします。

こどもの夏かぜに注意しましょう

夏かぜとは？

　夏にこどもを中心に患者数が増える感染症の総称で、以下に示す感染症が主なものです。
　例年、５～６月に流行が始まり、７～８月にピークを迎えますが、新型コロナの発生以降、流行時期が変化しています。

	咽頭結膜熱（プール熱）	手足口病	ヘルパンギーナ
主な症状	高熱（38～39℃）、咽頭炎、結膜炎	口の中、手のひら、足の裏などの水疱発疹、発熱、大人が感染した場合には痛みが強く出ることが多い。	急な発熱（高熱）、口の中（奥）にできる水疱（痛みで食欲不振になることあり）
原因ウイルス	アデノウイルス	コクサッキーウイルス、エンテロウイルス	コクサッキーウイルス、エコーウイルス
感染経路	●飛沫感染 　患者のくしゃみや咳に含まれるウイルスを吸い込むことによっておこる。 ●経口感染・接触感染 　水疱の内容物や便に排出されたウイルスが手指やタオル等を介して、口や目に入ることによっておこる。		
潜伏期間	５～６日	３～６日	２～４日

感染を予防するためには

- 手指は石けんと流水でよく洗う。
　これらのウイルスは**アルコール消毒が効きにくい**ため、石けんと流水で手を洗いましょう。
　症状がおさまった後も２～４週間程度は、便などにウイルスが排出されています。普段からトイレの後、おむつ交換の後にはしっかりと手洗いをすることが大切です。
- タオルの共用はしない。
　タオル等からの接触感染によりひろがります。症状がある場合には、自宅でもタオルなどを共用しないよう注意しましょう。
- 咳エチケットに努める。
　症状がある場合はマスクを着用するなど咳エチケットに努めましょう。

感染症の発生動向については、左のＱＲコードから福岡県保健環境研究所のホームページをご覧ください。

福岡県　感染症　発生動向　検索

福 岡 県